

九月二〇日

巨大遊具“モンスター”打合わせ。これが春に出来ればなと思わなくもないが、仕方ない。仕方ない、仕方ないで月日が流れてしまう。スタッフを怒鳴るな。我慢、我慢。

午後大学来客多し。カナダ国籍中国人。入室希望。四八才の人物。面白そうな人間ではある。古川真一氏来室。真直な人だ。十九時前世田谷に戻る。打ち合わせ。十勝の後藤さんより手紙いただく。なんとか期待に応えなくてはいけない。

九月二一日

午後建築家会館でギャラ間シンポジウム出席。修了後、太田浩史君の紹介で、アライグマギンの家を買った方にお目にかかる。ギンの家の元オーナーはあの家を売り払って引越していたようだ。新しいオーナーはワコールアートセンターの松田さん。ギンの家位特殊な家はまず無いと覚悟して作った家だが、ああいう特殊な家を使い廻してゆこうとする人が出現しているのだな。この先の建築を考えようというシンポジウムではあったが、私にはシンポジウム後の松田さんとの面会の方が、この先の建築の可能性を暗示しているように思えて仕方なかった。

九月二三日 秋分の日

昨日は完全休養。好きな本を読み散らした。今日は東大病院に

入院中の佐藤健に会いに行く。北海道十勝のスノーフィールド・カフェのアイデアをまとめなくては。雪上にポツリと置く建築を作れという後藤健市さんの要求自体が面白いのだな。施主が変わり始めている、そのスピードが建築家達の変化の速力よりも勝っているのが問題なのだ。

二二時、十勝フィールド・カフェのアイデアまとまる。スノーポートと名付ける。

今日は十三時東大病院に佐藤健を訪ねた。二時間半程居た。まだ検査が出来る体力の状態ではないと言う。病院内の移動も車椅子だと言う。痛みで原稿は今書けぬとも言う。気力は体力を基盤にするというのが良くわかる。